

令和6年度（2024年度）宝塚市人権教育推進委員会（概要）

会議名	令和6年度（2024年度）第7回 宝塚市人権教育推進委員会
日 時	令和7年（2025年） 3月13日（木） 10：00～12：00
場 所	宝塚市立中央公民館 208学習室
出席数	■ 宮前委員 □ 能勢委員 ■ 坂本委員 ■ 伴委員 ■ 岩室委員 ■ 杉村委員 □ 奥委員 ■ 井上委員 ■ 林委員 ■ 福住委員 □ 菅委員 ■ 有賀委員 ■ 小玉委員 ■ 川島委員 □ 久保委員 （■出席／□欠席）
傍聴者	0 名

- 1 開 会
- 2 次長あいさつ
- 3 先生と市民のための人権教育・啓発パンフレットについて
- 4 各校区における人権教育・啓発の課題について
- 5 その他

事務局：それではただ今より第7回宝塚市人権教育推進委員会を開催いたします。早速ですが、学校教育部次長の西口より挨拶を申し上げます。

次 長：本日は第7回宝塚市人権教育推進委員会にお集まりいただきありがとうございます。皆さまにご協議いただきましたアンケートを各保護者の方に送らせていただいて、今集計中ということになっています。現在1200から1300くらいの回答があるように聞いていますが、今後どうしていけば数字が伸びるのか、委員会の方でも検討していかないといけないと思っています。本日は今年度の最後の会ということで、パンフレットと校区人権についての課題についてご協議いただくというふうに聞いていますので、皆さまの忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局：それでは早速審議の方に移っていききたいと思います。はじめに本日の会議の成立についてですが、定数15名に対し、本日の委員出席は11名ですので過半数を超えており、宝塚市人権教育推進委員会規則第5条第2項の規定により、会議が成立していますことをご報告申し上げます。それではこれからの議事進行につきまして、委員会規則、第5条第1項の規定によりまして、坂本委員長にお願いしたいと思います。では委員長よろしくお願ひします。

委員長：まず事務局にお尋ねします。この委員会は原則公開ということになっていますが、本日傍聴者はいらっしゃいますか？

事務局：いらっしゃいません。

委員長：わかりました。それでは議事に入らせていただきます。まず初めに事務局より訂正がありますので事務局の方、よろしくお願いします。

事務局：前回の協議の中で「答申を教育長に出す」という話がありましたが、今回は正式な形で教育長から諮問しているという形ではありませんので、よって「3月に教育長に答申を出す」という部分については訂正をしてお詫び申し上げます。申し訳ありませんでした。なお、第1回推進委員会

でお願いしていました「市内での人権教育・啓発を進めていくために教育委員会や学校はどのように取り組めば良いのか」また、「地域単位ではどういうことを取り組んでいけば良いのか」ということに関してお答えを出していただくことは、来年3月にしていただきたいということは変わっていませんので、併せて伝えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

委員長：それでは前回からの宿題になっていました、パンフレットの修正等についてお話をさせていただきたいと思います。先に確認なのですが、このパンフレットの確認作業ですが中身を改訂するようなものではありません。パンフレットの作成につきましては前委員長であり宝同協の会長が関わって下さっています。ただこれを作ってから日数も経っていますので、この中で今の社会状況を踏まえてアップデートしないといけない所であるとか、文言や連絡先等が変更になっているような所があると思いますので、それについて今日は協議をしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それではお気づきのところがありましたらお願いします。

委員：基本的に中身を変えないということと少し矛盾するかもしれませんが、38ページの26番「同和地区がありますか？の問いに」というところです。同和地区がありますか？部落がありますか？のQ（質問）に対する答えのところに「今、同和地区ってないんですよ」と答えているのですが、同和地区を特別措置法の対象地区としてだけで、限定して使っている例は、今は、ほぼないと思います。同和地区と部落を同じように使っているので、この「今、同和地区ってないんですよ」と言ってしまうと誤解を招くし、「差別されている対象もないのにどういふうに同和行政とか人権行政を進めていくのか？」というふうなそれこそ揚げ足を取る側に使われてしまいかねない答えじゃないかなと思います。国だけではなくいろいろな所で同和地区と被差別部落と、どちらを先にするかは別として「被差別部落（同和地区）」とか「同和地区（被差別部落）」というふうに使っている自治体も増えてはきているのでそういうふうにするのではないかと思います。あと「今、同和地区ってないんですよ」というのは議論のあるところではあると思いますし、いろんなスタンスがあるので、そういうふうにする人がいることは分かっているのですが誤解を招くのではないかとちょっと思います。

委員長：ここで同じような意見のある方はいらっしゃいますか？

（特になし）

委員長：先ほど言いましたように、この協議の中で変更というのは少し難しいですので、今言っていたことにつきましては、また今後検討するということにさせていただきます。他にないでしょうか？

委員：36ページの「新型コロナウイルスを正しく理解しましょう」はもういらないのではないかと思います。あと情報に関する記載がいらないのかなと思います。インターネットに関するものではないかと思いました。あと校区人権の主な学習の内容が2年前と変わらず同じものを使っているの、今年の活動も提出していますので新しい内容に変えた方が良くないかと思いました。あと47ページの「情報化社会の中をどう生きていきますか？」のところでやはり「親が貸し出しているんだよ」というような文言がいらないのではないかと思いました。あと質問ですが58ページの「じんけんワークショップ講座」ですがコロナ後はしていないように思いますが、再開の予定はあるのでしょうか？

事務局：ワークショップのファシリテーターさんの登録はありますが、実際問題として活動ができていない状態が続いています。ファシリテーターさんのご事情もあってそのままになっている状態です。できるようにとは思っていますが、まだ目途がついていない状態です。

委員長：今出されたご意見ですが、それぞれのところでアップデートが必要だということですので、例えば36ページのコロナウイルスのところはもういいのではないかとということと、SNS のことであ

ったり校区人権の活動であったり、それをアップデートしてはどうかというご意見です。

委員：これは作り変えるのではなく、新たに刷り増しするための見直しを今しているのですか？例えば35ページの性の多様性のところですが、「13人に1人」が「さまざまな性」について悩んでいるとありますが、さまざまな性があるわけではありません。私たちの性とさまざまな性に分断するみたいな言い方になっていますが「自分の性」に悩んでいるんです。自分にとっては自分の性なので、気になるところがたくさんあります。子どものところで「性の多様性」「好きになる性」「表現する性」の下部分は説明文なのかどうか分からないです。それを言い出すときがないかもしれませんが、改めないといけなところは改めた方が良いのではないかと思います。

委員：性の多様性のところもそうですが、47ページの「知っておきたいこと」の欄ですが、内容がもう20年前くらいで、あまりにも古すぎるのではないかと思います。サイトとか今は全然主流ではないので、SNSとかの方が結構メインになるのではないかと思います。若い子に聞いてみないと詳しくは分からないのですが、私の知っている限りでもこれはかなり古いと感じました。

委員：今のページですとフィルタリングに関しても家で、時間で使えなくするというのも入れた方が良くと思います。携帯にフィルタリングをかけていてもWIFI使っていたら何でも入ってしまうとか、そういうのもいるのではないかと思います。

委員：それと6ページですが、この図がとても見難いのですが、改善はできないのでしょうか？理解するのに時間がかかったのもう少し見易くできないものかと思います。

委員長：今出されたご意見ですが、47ページの内容が20年前くらいから変わっていないということもありましたし、6ページの図のところもご意見がありましたので、次回の改定の際にこの辺り触れるようでしたらポイントとして改定していきたいと思います。

委員：もし付け足せるのであればマイクロアグレッション、相手をもやもやとさせるようなことは気を付けないといけないということも入れられたら良いと思います。

委員長：7ページの両カッコの後に全部点がついていますので、これは修正できると思います。

委員：全体的にフォントの統一をした方が良くと思います。

委員長：たくさんご指摘をいただきましたので、次回の改訂の時にきちんと修正ができるようにしたいと思います。ではパンフレットにつきましてはこれくらいにしておきまして、次は事務局から提案があります。

事務局：パンフレットについてのご意見ありがとうございました。これまでは2年おきに作成をしてきております。ただ毎回そんなに大きな改訂がない中で作り変えるというと、予算等いろいろな問題も出てきますので、例えば何ページのこの部分をこの言葉に変えるというような差し込み型でできるのであればということで考えていたのですが、この後来年度のいろいろな検討の中でご意見をいただきながらそのあたりどうするのか、事務局で考えていかないといけないと思っています。では、前回の推進委員会の中でも協議いただいた中に「地域での人権啓発を進める上で現在何が問題であるのか」について、課題をみなさんで出していつていただきたいと思いますということを皆さんでご協議いただきました。その中で課題の方は宝同協の校区人権啓発部の理事会にあげているというお話をいただいていた。そこで3月に行われました理事会に参加してきました。まずそのご報告の方からさせていただきます。

(スライドを使用して課題の説明)

事務局：そこでよく出ていた課題といえば「市民集会等を行った際に参加者が少ない」「組織を維持・継続していくための人が集まりにくい」というところです。参加者が少ないという課題に対しての解決策として、「日程・場所を考える」「まち協さんに声をかける」「保護者の参加が多くなるように意識する」「子どもの参加の検討をする」「学校から発信して告知する」「講師選びを吟味する」「校区にあったテーマを検討する」といったものが挙げられました。同じように組織を維持・継続していくための人が集まりにくいということにしても、おそらく課題が複雑に絡み合って新しい人が入りにくい状況があると思いますので、この課題をもう少し細分化できないか？また細分化するために全23校区に調査をかけて、実際にどういったところが課題なのかを把握することが3月に皆さまにお答えを出していただく中でより詳しくなるようなものになるのではないかと思います。

委員長：校区人権の中でいろいろな課題が出されました。事務局からは「大きな課題があるのですが、その課題をもう少し分析して細かい課題を出し合って、その中でその細かい課題について具体的な手立てを出し合ってはどうか」という提案がありましたが、今からそういったことを協議するというのはどうでしょうか？

事務局：今回お話し合いをしていただく上で、付箋をご用意しています。まずは地域における人権啓発を進める上で課題になるものを一つずつ付箋に書いていただき、それを後ほど2つのグループに分かれていただいて課題の整理をしていただきます。その課題が出てきたら実際に本当に多い課題と、課題は課題だけどそんなに大きな問題になっていない課題がきっとあると思います。それが一体どれなのかというのを各校区の方に調査をかけたいというところになりますので、多そうな課題しか書いてはいけなくというわけではなく、経験していないから分からないというよりは、経験していないからこそこんなのが課題にならないのかなということも是非書いていただくことで、別の方の思い付き・ひらめきを誘うこともできるかと思います。是非どんなことでも書いていただけたらと思います。いかがでしょうか？

委員：校区人権に人が集まらない理由、課題を書くのですか？

事務局：校区人権啓発部の取り組み方の課題ではありませんので、地域で人権啓発を進めていく時にこういうことが課題でなかなか広まりが持ちにくいというのではないかとこのところを考えていただくということになります。

委員：地域で人権啓発が広まらない理由、課題？

事務局：どの地域も活性化状態であれば考える必要はありませんが、難しさをそれぞれ抱えていらっしゃると思いますが、ある意味長くやっている方だからこそ課題と思うものと、初めて来た人と・・・

委員：根本のところを教えてください。何に対して書くのですか？

事務局：地域で人権啓発を進める時に課題になっていることです。子どもがまだ小さいから参加しにくいというのもひとつの課題になっていると思います。例えばこういうところに調査をかけた時にご意見が多いようでしたら、例えばこれは各校区に分配されているお金を使って託児を1回4000円で2時間くらい見てもらえるというのが市の事業であるのですが、例えばそれを校区のお金でやってくださいというとなればあれなので、組織の中でそういった託児を使って会を開く際にはあらかじめ何人分のお金をあるから申請があればそこに先着順に優先に出しますという組織の方も取り組み方を変えるというような、そういったことにも繋がるとと思いますので、校区人権だけの問題なのか、市や組織が別の手立てを取ることで前に進むのかみたいな、そんなところにも話が及ぶことを見越した上で、まずは具体的な課題を皆さんで探れるようなものが今できれば良いと思っています。

委員：それはこの次にやろうとしている地域における人権教育の進め方をまた調査するというための議論を今からするということですか？

事務局：ここで話していただいた内容は、たぶん多くの場合当てはまると思いますが、その中でどれが実際に多い課題なのかということころは、このメンバーだと正直分らないと思いますので、それを23校区にアンケート式であてはまるものにチェックを入れて下さいというようなものを作って各校区から集約をすれば、どういうものが課題として多いのかというのが具体的に分かるのではないかと、そういう仕組みを考えています。取り急ぎやるのは付箋に課題を書くという作業になります。

委員：初歩的なことを聞きますが、校区人権で行事する度に人が集まってこないことについて書くということですか？

事務局：校区人権には聞きますが、地域で何かする時というくらいの大きなイメージで良いと思っています。一旦書きながら、ぜひ今の質問なりご意見をいただきながらと思います。

委員長：事務局からありましたが、地域で人権啓発が進まない理由というのをできるだけ細かい視点で書いていただいて、それを後ほど2つのグループに分けて持ち寄って、そこで整理をして、今後校区人権に調査をかける時の設問のヒントみたいなことになれば良いかと思いますので、今から書いていただけたらと思います。

(各自で付箋に課題を書く作業)

委員長：では今からグループ分けをさせていただきます。

(2つのグループに分かれて課題の整理を行う作業)

委員長：活発なご討議ありがとうございました。各グループから簡単に説明をしていただきます。

(2つのグループから話し合ったことを発表)

委員長：これを基に校区人権に調査をかける時にどんな設問があれば良いかというところに入っていきたいと思います。地域の方にどんなアンケートを取れば良いのかを今から協議したいと思います。

委員：校区人権にアンケートをするよりも、その周りにいる人たちにアンケートをする方が良いのではないのでしょうか？

事務局：聞く対象というのを今回は校区人権啓発部になっているのは、教育委員会が事務局となっているところが校区人権啓発部であるので、通しやすいというのがあります。宝塚市で人権啓発を先頭に立って進めていくとなると宝同協であり校区人権になると思います。

設問の方ですが、大きな設問が「参加者が集まらない理由について該当するものにチェックを入れてください」という設問で「参加者の関心が少ない」「参加者に情報が入っていない」「参加者に時間がない」というようなチェック項目になるような形になれば良いかなと思っています。併せてもうひとつが「新しく組織に入ってくる方が少ない理由について該当するものにチェックを入れてください」という設問に対する選択肢があるので、他に大きな設問の3つ目があるかというところですよ。

委員長：事務局からありましたが「人が集まらない」というのが設問のひとつ。もうひとつは「組織に入りにくい理由」というのがありましたが、その他3つ目があるのか？今出た2つに対してもこれは少しおかしいのではないかと。まず大きな設問について考えましょう。

委 員：課題はたくさん出ているので、また聞いても同じようなことにならないですか？

委 員：課題を明らかにして、教育委員会として何が必要なのかということをしたいのですよね。

委 員：課題に対して、どうしようかをここで話をして、それを出せば教育委員会がそれに対して何か答えてくださるということでしょうか？

事務局：校区人権の理事さんだけに答えていただくと理事さんご自身が感じている課題になってしまうので、長くしているから課題に感じないけど、新しく入ったから課題に感じるということもあると思います。すみずみまで課題を把握するということで、聞く人は校区人権の中で4人ないし5人とかが良いのかと思います。

委 員：新しい方は単年度で入って、変わるもので、今からアンケートを取るとしたら1学期の終わりくらいですね。新しく入った人は入ったばかりですね。

委 員：今年度の方に聞くのでしょうか？

事務局：聞ければ良いのですが、そのあたりは調整が必要だと思います。

委員長：23人の委員長は必ず答えてもらおうとして、事務局からありましたが、残り3名とか4名は校区人権の中で、たとえばこの人というのを当たってもらうのですか？

委 員：委員長が依頼するのでしょうか？そうであれば、校区によっては新しい人であるかもしれないし、昨年やっていて今年は関わっていない人かもしれないし、何年もやっている人かもしれませんね。

事務局：それは集約する際にどういう人がこう答えたというのは、違いを見るような集計の仕方が設定できます。

委 員：総数120人くらいで傾向がわかるのでしょうか？

委 員：本当はもう少しあります。300人から400人くらいです。

事務局：市職員の方も対象に入れるというのもひとつの方法です。設問は「参加者が集まらない理由」「新しく人が組織に入ってこない」あとは設問ができないのであれば、「その他」として書いてもらうのも方法です。「あとは人権啓発を進める上で組織の連携について課題に感じていること」みたいな設問があるかもしれません。

委員長：アンケートの対象者であるとか、設問について、はっきりと結論が出なかったもので、次回に持ち越しにしたいと思います。

(今年度で任期の終わる委員よりご挨拶)

委員長：次回ですが、年度が切り替わるので日程調整は後日事務局から案内があると思いますので、またそれで来年度スタートしていきたいと思います。

委 員：何月に開催される予定ですか？

事務局：年間計画上、5月くらいを予定していますが、事務局の都合によって変わるかもしれません。

委員長：できるだけ早く日程調整をお願いします。これをもちまして本年度の会議は終わりたいと思います。どうもありがとうございました。